

9年(令和元年)6月22日(土曜日)

さがの政治・経済 22

中東問題の日本人向けプログラムを企画し、参加を呼び掛けている加藤さん
IIイスラエルの国際学術機関GIMI



加藤さん(唐津市出身)講座を企画

「中東問題」現地で考える

イスラエルの国際学術機関。スマートフォンなどで関てインターン生として活動している唐津市出身の加藤杜亮さん(23) II立教大4年IIが、中東問題を現地で考える日本人向け講座を企画した。9月に8日間開き、「問題を肌で感じてもらいたい」と、紛争に直面している当事者から話を聞く。参加者を募っている。

加藤さんは、東京のITベンチャー企業のインターン生だったところ、イスラエルでは起業で成功したケースが多いことに興味を持っ

た。スマートフォンなどで普及している顔認証技術の起源が「イスラエルとパレスチナの間の分離壁で使われているカメラだ」と知り、衝撃を受けたという。

大学を休学し、3月からイスラエルの学術機関「ガリリーインスティテュート」(GIMI)のインターン生になり、北部のナハラルで暮らす。現在は日本人向けのプログラムの企画を任されている。日程は9月3日から10日までの8日間、現地の大学教授や元

政府職員、NGO職員、パレスチナ自治区関係者が講師を務める。言語は英語で、講義や対話形式で進める。現地視察も予定し、過去の同様の海外向けプログラムでは、ユダヤ人の入植地やイスラエル国内にあるアラブ人集落、ホロコースト関連施設などを回った。

加藤さんは「日本人学生でイスラエル・パレスチナ問題を学んでいる人は少ない」と話し、それだけに、中東問題を肌で感じてもらいたいと考えている。「街

9月に8日間、参加募る

を歩けば民族や国家という以前に、笑いや悲しみ、喧騒など庶民の暮らしがある。人がいきなり憎しみ合うことには無理があると強く感じる」と述べ、「理解することが解決の糸口になると思う。ぜひ佐賀からも参加してほしい」と呼び掛ける。

渡航費は自費で、現地の宿泊代、授業料は合わせて30万円程度になる。授業料が免除になる制度もある。学生だけでなく社会人も参加できる。申し込み締め切りは7月1日。問い合わせは加藤さん、メールmkato@galileocol.ac.il (山口貴由)

さが政経ライヴ